

まちづくり
戦略

6

安心・安全に住み続けられるまちづくり

中京区は、平安建都以来、戦乱や災害、疫病等のあらゆる危機を乗り越え、地域の結束力に磨きをかけてきましたが、現在においても、防犯や防災、感染症対策、交通安全、空き家対策等のさまざまな課題に直面しています。こうした課題を克服するには、多様な主体が相互に連携・協力し、協働する必要があります。

中京区が誇る、高い「地域力」、「市民力」を結集・発揮することで、今後もだれもが経験したことのない危機的状況が起こったとしても、安心・安全に住み続けられるまちづくりを推進します。



① 安心・安全ネットワークの充実

安心・安全な地域づくりには、地域住民、事業者と区役所、警察、消防、学校等の関係機関の連携が欠かせません。防犯や防災、感染症対策、子どもの安全、地域福祉等の幅広い分野で、それぞれの組織の強みを生かした取組を展開することで、地域の安心・安全ネットワークの充実を図り、多様な課題に柔軟に対応できるまちの実現をめざします。

<主要な取組>

- 区内の関係機関と地域、事業者が連携した安心・安全の取組の実施
- 地域における防犯活動や見守り活動への支援

② 防災・減災に向けた日常的な協力関係の構築

災害発生時は、自分自身の身を守る「自助」とともに、近所のひとたちと協力しながら地域の安全を守る「互助」や「共助」の取組が重要です。日頃から住民同士の顔が見える関係づくりを後押しするとともに、自治連合会や自主防災会、消防団をはじめ地域の事業者や商店街等と連携して、まちの危険箇所の対策や避難所運営訓練を行うなど、地域における防災・減災の取組の支援を強化します。

<主要な取組>

- 感染症の影響も想定した防災対策の確立と地域住民による実践型防災訓練の開催支援
- 要配慮者（乳幼児や妊産婦、高齢者、障害者等）の避難支援の取組の促進

③ 歩行者優先のまちづくりと交通マナーの確立

安心・安全で、日々のくらしや生業の空間として魅力的なまちなかをめざす「通りの復権★」を実現するには、まずはクルマ中心の単なる通過空間ではない「歩くこと」を中心としたまちに転換することが重要です。

高齢者や障害のあるひとをはじめ、だれにとっても快適な歩行者優先のまちづくりをめざし、クルマや自転車の交通ルールの順守やマナー向上の取組を推進します。

<主要な取組>

- 親子で楽しく交通ルールやマナーを学べるイベントの開催
- 地域の団体や学校と連携した「通り」の安全を確保する取組の推進（再掲）

★通りの復権 P16参照

4 観光客へのマナーの普及

中京区には、国内外から多くの観光客が訪れる一方、京都の文化や習慣に対する理解が十分に浸透していないため、トラブルが発生するケースも見られます。ポストコロナを見据え、旅行事業者や宿泊事業者等の関係者と連携し、観光客へのマナーの普及を図ることで、市民生活を最優先に、安心安全、豊かさの向上、地域文化・コミュニティの継承・発展につながる「市民生活・地域コミュニティと観光の更なる調和」を推進します。

<主要な取組>

- 観光資源の魅力の背景にあるくらしの文化の発信
- 観光関連事業者等と連携した観光客に対するマナー情報の発信

5 空き家活用の促進

老朽化した空き家の放置により、生活環境や景観の悪化、防犯・防災上の課題が生じています。一方で、空き家は、将来の住まいやオフィスなど、まちの活力を生み出す貴重な資産にもなります。課題解決のために、必要な情報の発信を強化するなど、空き家の活用と解消を促進していきます。

<主要な取組>

- 司法書士等の専門家と連携した情報発信
- 空き家の適正管理対策と活用に取り組む地域への支援
- 区役所での空き家等活用相談窓口の実施



戦略6 日頃から「顔の見える関係」を!

この戦略を実現するには、ひとりひとりが事前にできることを考え、備えておくことが重要です。

全国各地で大規模な災害が相次いでいます。御自身や知人が過去に被災したことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、被災の経験がない方も、自然災害が頻発する今日の日本ではつねに被災者になる可能性があります。また、事件・事故もだれにでも起こりうることですが、一方では被害に遭われた方からは「まさか自分が被害に遭うとは思っていなかった。」という声が多いのも実情です。災害や日常生活の危険について最悪の事態を想定し備えておくことは、自分自身や大切な家族を守るために必要です。

最近、備蓄やハザードマップの確認など、事前の備えをされている方が増えています。また、地域の訓練に参加し役割分担を決めておくなど、「互助」、「共助」を意識した活動にも関心が高まっています。このように、ひとりひとりが事前にできることを考え、普段から周りのひとと協力して取り組んでいくことはとても重要です。また、災害対策だけでなく、交通事故や防犯対策、空き家の問題でも、事前に危険箇所の把握や改善に努め、隣家と日常的なコミュニケーションを図るなど、トラブルを未然に防ぐためにできることがあります。

「安心・安全」は、わたしたちのくらしや生命に直結する重要な問題です。いくら備えても、備え過ぎるということはありません。また、最終的にみずからのいのちを守るのは自分自身ですが、ひとりでは限界もあります。普段から隣近所や地域のなかでお互いに助け合えるよう、「顔の見える関係」をつくっていきましょう。